

教師は「フリオチ」の達人たれ

今夏、アメリカから知人の親子が遊びに来ました。

お父さんは日本人ですがアメリカの女性と結婚してニューヨークに永住したので、その子はもちろんハーフです。ですが、日本語も会話程度ならできますし、ひらがなやカタカナ、簡単な漢字も読むことができる、いわゆるバイリンガルなのです。

その子が我が家でくつろぎながら新聞に目を通しているとき、「なかはらは一って誰？」といきなり私に尋ねてきました。「ナカハラハー？」何を言っているのかさっぱりわかりませんでした。新聞に目を落して思わず吹き出しました。そこには、新潟市長の名前が載っていたのです。「中原八一」と。

『中原』は苗字、『八一』は名前で、カタカナの『ハー』じゃなくて、漢字だよ。『八(はち)』と『一(いち)』で『やいち』と笑いながら説明しました。

日常のこんな笑い話は実にほっこりする瞬間です。笑うということとは、健康にも脳の活性化にも、精神衛生上も、とてもいいことだと思っています。

さて、学校が再開します。学校の日々の授業も、生徒にとって「おもしろい」とか「楽しい」ものであってほしいものです。ただし、授業が「おもしろい」「楽しい」というのは、もちろん、こんな笑い話や、私の大好きな親父ギャグを連発することで授業を脱線させて受けを狙うことではありません。

具体的には、「なぜ」「どうして」と思わせるような、生徒の興味・関心を喚起する課題や授業の展開内容であること。生徒が、わからなかったことやできなかったことが、授業を通して理解できたりできるようになって喜びを見出すこと。もっと知りたい、もっと追求してみたい、と思うこと。などです。

そして、授業がおもしろくて楽しいものであるための要素として、授業中の生徒と教師の「共感」と、教師サイドの「フリオチ」のテクニックが不可欠だと考えます。

「フリオチ」とは、打ち上げ花火に例えるなら、花火の導火線に火を点けると火が線に伝わって火薬に引火し、ドーンと花火が打ち上げられる。この「導火線」が「フリ」で、「火薬」が「オチ」でしょうか。また、新潟市の授業づくりの観点から言えば、「フリ」が「学習課題」で、「オチ」が「まとめ」とでも言えるでしょうか。

この「フリオチ」が達者な職種の間人と言え、お笑い芸人だと思ひます。そうでなければ笑いはとれないですから。

かつて視聴した『人志松本のすべらない話』の中で、絶妙な「フリオチ」に出会いました。「ほっしゃん」というお笑い芸人の提供した話ですが、我々の授業づくりにも参考になる要素があります。

※ ※

「これほんのちょっと前の話なんですけど、後輩連中とお酒飲んで酔っ払って、夜中に家に帰ってきたんですよ・・・」

(お～、今日は一体何の話なんだ？・・・)

→これは授業で言えば『導入』か?)

「酔っ払って深夜に帰宅したら、ガス代を何ヶ月も未払いで滞納していたため、郵便受けに、明日支払わないとガスが止められるという通知が来てたんです。明日こそ支払いを忘れないようにと、寝る前にメモ用紙をちぎってボールペンで『ガス代を忘れない』と書いてテーブルの上に財布でおさえて置いて、酔いつぶれてそのまま寝たんですよ。」

(うん、うん、それから一体どうなったんだ?)

→ お～、これが今日の『学習課題』なのかなあ?)

「朝起きたら、奥さんの様子がいつもと変でやたらと不機嫌な感じで・・・奥さんから『きのうは遅くまで、随分お楽しみだったんだね。“がすよ”って女性是谁なのよ。』

(えー、これが「まとめ」ですか?)

→ “がす代”なんて名前の女性なんているんかい?)

※ ※

「授業」こそが学校の生命線です。前述したように、「おもしろい」「楽しい」授業づくりをしなければならないのは当然ですが、教科の本質そのもので勝負しなければなりません。もちろん授業で笑いをとれということではなく、先生方には、このような「フリオチ」のテクニックも、指導技術の参考にしてほしいと思います。

私は、テスト結果よりも、「その先生の“授業”が好き」と生徒に言われることが一番だと思います。「その先生が好き」ではありません。必要以上に生徒に迎合したり生徒の機嫌をとる必要はありません。「その先生の“授業”が好き」と言われる授業を目指すこと、逆に「その先生の“授業”が好き」という授業ならば、いずれは、結果、つまり学力も伴うものだと思います。

一方で、有名お笑い芸人などの醸し出すオーラは、教師として身に付けるべき資質に通ずると感じます。どんなに情報化が進み、GIGA スクールの時代と言っても、機械はあくまで道具にすぎず、ICT活用は手段であって目的にはなり得ません。授業をするのはあくまで生身の人間です。教師自身の個性・人間性・人間的魅力・全人格が問われます。

日本人で『ハー』さんとか『がすよ』さんという名が存在すると思った人間がいたからこそこれらの実話を見れば、そんな人いるわけないに決まっていると思う自分の方が、人としてまだまだ未熟でスケールが小さいのでしょうか？